

本田五郎（編）
大目祐介，本田五郎（著）

坂の上のラパ肝・胆・膵 [Web 動画付] 腹腔鏡下手術が拓く肝胆膵外科の NEW スタダード

[評者] 遠藤 格

日本肝胆膵外科学会理事長/横浜市大主任教授・消化器・腫瘍外科学

わが国の肝胆膵外科を牽引する若手のリーダーの一人である本田五郎先生とお弟子さんの大目祐介先生が共同執筆された本書は、本田先生が「現時点での腹腔鏡下肝胆膵外科手術の到達点」として出版されたものである。これは読まないわけにはいかないだろう。

本書には、本田先生の開発したさまざまな有名術式・概念が網羅されている。例えば有名な「胆嚢摘出術における SS-inner layer」，「肝静脈の股裂きを防止する CUSA の使い方」，「caudate lobe-first approach」などである。

本書の特徴は「わかりやすい」ことに尽きるだろう。手術シェーマが

好きな人にはたまらない素晴らしい図が数多く収載されている。Web 動画のリンクまで用意されている。そのため、次は本田式でやってみようかな、と思わせる、そんな誘惑にあふれている。

また、随所に Knack & Pitfall が散りばめられている点も、宝探しのようで面白い。具体的に数か所列举すると、「胆嚢全層摘出術の際の胆嚢板の処理」(p 51)，「肝門近傍の地雷」(p 54)，「前区域 Glisson 茎の首は長めに確保する」(p 190) など非常に有益なポイントが散りばめられている。

また、Coffee Break や Discussion という名の「つぶやき」もある。

「negative 思考」(p 90)，「ベッドサイド命」(p 294)，「リンパ節郭清のエビデンス」(p 330) などを読むと、彼の気骨あふれる人柄がよく理解できる。まさに本田五郎の真骨頂である。

そろそろ肝胆膵外科にも開腹を知らない若い世代が増えつつある。本書はこれから肝胆膵外科の坂道を登っていく若手外科医のバイブル的存在になるのではないだろうか。

●A4/頁 376/2023 年 7 月

定価：19,800 円

(本体 18,000 円+税 10%)

[ISBN978-4-260-04984-9]

医学書院 刊